

第31回四国作業療法学会へ参加して 四国内の作業療法士の“輪”を 広げましょう! [2022年2月26日(土)・27日(日)Web開催]



第31回四国作業療法学会 学会長 浅川 英則氏へのインタビュー

今回の学会のテーマを「広げたい輪 深めたい和 四国の‘わ’～根源に還る～」にした背景について教えてください。

浅川学会長 今回の学会のテーマについてですが、そんなに難しく考えたわけではなく、「四国内の作業療法士のつながりや“輪”が広がったらしいよね」ということで、“わ”的字を3つ並べて、語呂良くしてみて、というような流れで、実行委員会で決まりました(笑)。この“輪”っていうのは、四国作業療法学会なので、作業療法士同士の輪、そこに他職種の方が来ていただけるのなら、その方々も含めて1つの輪になってつながることができれば良いなと考えています。作業療法士というカテゴリーで捉えると、年齢や分野に関係なく、皆が1つにつながっていて、私の個人的な感覚では親戚みたいな感じなんですね。親戚は何かのタイミングで集まるでしょう(笑)。県単位に比べて四国単位の頻度はどうしても少なくなりますし、そこに新型コロナウイルスの感染拡大の影響も加わり、益々つながりにくいのが今の時代ではないかと思っています。そんな中での四国学会がわずかでもつながりや“輪”を広げられる機会になれば良いなと考えています。

今回の学会の企画や内容の核となる部分は何ですか?

浅川学会長 今年、(一社)日本作業療法士協会が設立されて、55年を迎えました。現在の全国の作業療法士の有資格者数は約10万4000人で、私の免許番号が2万ぐらいなので、この22～23年で8万人程度も増えています。この間に作業療法の対象領域も広がり、介入の仕方など作業療法のプロセス自体の選択肢も増えてきたと思います。たった20年で、1つの療法といわれるものが、これだけ広がり多様化した背景には求められる役割があったからだと解釈しています。人間は、数的に少数の時には1つの考え方でまとまる傾向にありますが、数的に多くなると、やはり様々な考え方や価値観が出てくると思います。今まさに、“作業療法”はそういう時代に来ていると思います。

作業療法士の専門性も多様化している中、個々の作業療法が異なっていいのか、正解は何だろうかとなりそうなものですが、私自身は、作業療法の根源さえブレなければ良いと思っています。様々な考え方や価値観を聞いたり、触れたりして、個々の作業療法の幅が広がることが大事なんだと思います。幅広く、多種多様でいい、それが作業療法だと思います。

浅川学会長にとって学会に参加するとはどういうことですか？

浅川学会長 私の中で学会とは、様々な分野の方々が集う場所であり、多くの方の価値観に触れることができる“場”だと捉えています。自分の職場だけではもしかしたら知識や技術が偏るかもしれませんし、自身の正解につながる材料というか、過程になれば良いと思います。様々な方の作業療法についての考え方や価値観に触れて、「良い刺激になった」と思う方もいれば、「全然、刺激がなかった」と思う方もいるかもしれませんが、それも1つ、自分を知るきっかけになる大切な過程だと思います。作業療法士は“人”と向き合う場面の多い仕事なので、様々な分野で頑張っている方々の価値観に触れることが大切だと思います。

今回の学会の講演やシンポジウムなどの内容について教えてください。

浅川学会長 学会の企画については、実行委員がそれぞれ聞きたい内容を考えて意見を出し、その中から講演やシンポジウム、セミナーなどの内容を決めていきました。実行委員の年代や領域、価値観などが様々なこともあり、多様で幅広い内容になったと思います。

基調講演では、山本伸一氏((一社)日本作業療法士協会 副会長)をお招きし、「組織運営と人材育成について」ご講演いただきます。作業療法士の有資格者数の増加に伴い、施設や病院など、組織が大きくなってきたところも多いと思います。組織を管理する方だけでなく、中堅や若手など、これはもう皆で聞きたい話で、それが1つの心得として組織を成り立たせる糧になると思います。

シンポジウムでは「高次脳機能障害者の支援を再考する」、「地域支援の可能性(仮)」をテーマとして、最前線でご活躍されている方々をお招きし、支援の形についてお話しitたいと思います。また、近年全国的に問題となっている「高齢者の自動車運転 (仮)」について朴啓彰氏(高知検診クリニック脳ドックセンター長)による講演や、土居氏によるシーティング、片岡氏によるワークライフバランスなど、“盛り沢山の学会”となっています。講演内容の領域に携わっていない方も、「同じ作業療法士の資格を持った人がこんなことしてるとんでもない」と知っていただくことで、良い刺激となれば幸いです。

学会に参加して、得ることや今後に活かせることについて教えてください。

浅川学会長 私自身、新人の頃から長らく学会や研修会に参加していなかった過去があります。相当、長い期間、参加していませんでした。なぜ参加しなかったかというと、単純に、「休みの日に勉強するのが嫌で、とにかく遊びたかった」これがもう正直なところです。それで年数を重ねていき、ある時、周りに誘われて学会に行きました。その学会で、私が何を感じたかというと、本当に、“うらしまったろう?”というぐらい、全然わからない、聞いたことない言葉ばかりで焦りを覚えました。学会や研修会に行かず、文献も読まず、このアップデートなしの自分は否が応でもブランクを感じました。

じることになるわけです。

学会というのは、我々を取り巻く環境の“今”を知ることができ、今の自分を知ることもできる場であると思います。そこで自分自身が学ぶべきことに気づき、次の目標を決められるということが、参加して得られる一つのメリットだと思います。私自身、今では、定期的に学会に参加して、自分自身のアップデートをしています(笑)。

参加をされる会員、及びオンライン開催での参加に悩んでいる会員へのメッセージをお願いします。

浅川学会長

オンライン開催となったことで、対面での作業療法士のつながりを作る、というのは難しくなりました。しかし、各県の方々に参加いただき、学会という場を共有し、様々な方の講演や発表を聞く中で、参加された方々が多くのことにつれて、感じていただく学会となるよう、実行委員一同、取り組んでおります。

オンラインでの参加様式のため、移動を伴わず、宿泊もしなくていい、自分のペースで参加ができるなど、参加のしやすさというところでのメリットは大きいにあると思います。オンライン学会は四国作業療法学会では初めてなので、当日はハプニングもあるかもしれません。そこで我々が慌てているのも学会の1つの場面として、皆様に見ていただきたいです。

詳細はホームページにアップしていますので、興味を持っていただけるなら、是非、ご参加いただけますようご検討ください。

編集部員のコメント

取材をさせていただき、浅川氏より学会とは、発表や講義などを通し、新たな発見や気づき及び自身の研鑽のみではなく、参加している作業療法士や他職種と関係性の構築や輪を広げることが大切であると改めて教えていただきました。

私自身、行政や他職種と業務を行い、意見を聞く中で、利用者に対しての取り組みや考え方などたくさんのことにつれて、学ばせてもらっています。今学会は、作業療法の多様化に向けて、考え合うことをひとつテーマとしており、他分野の方々の発表や講義などを聞く中で、今後作業療法を行う中で必要な知識になると私自身考えています。

はじめはWebでの研修に抵抗がありました、時間の制約が軽減されることで、家族との休日も大切にしながら、様々な研修に参加できるようになったと思います(^^)

悩んでいる方はぜひ、休日も大切にしながら、学会に参加し、学ぶ場のみでなく、輪を広げ、作業療法を皆で盛り上げていけたらと思います(^^)